



Title	田中愼一教授 研究業績
Citation	經濟學研究, 59(4), ii-iv
Issue Date	2010-03-11
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/42783">http://hdl.handle.net/2115/42783</a>
Type	bulletin (other)
File Information	ES59-4_011.pdf



[Instructions for use](#)

## 田中 愼一 教授 研究業績

### 論文

1. 「韓国財政整理における徴税制度改革について」『社会経済史学』第39巻第4号 51-77頁 1974年1月。
2. 「韓国財政整理における『徴税台帳』整備について 朝鮮土地調査事業史研究序論」『土地制度史学』第63号 1-20頁 1974年4月。
3. 「保護国問題 有賀長雄・立作太郎の保護国論争」『社会科学研究』(東京大学社会科学研究所)第28巻第2号 126-162頁 1976年8月。
4. 「保護国の歴史的位罫 古典的研究の検討」『東洋文化研究所紀要』(東京大学東洋文化研究所)第71冊 297-344頁 1977年3月。
5. 「朝鮮における土地調査事業の世界史的位罫(一) 帝国主義・植民地的土地政策の特殊日本 = 朝鮮的性格」『社会科学研究』(東京大学社会科学研究所)第29巻第3号 1-84頁 1977年10月。
6. 「朝鮮における土地調査事業の世界史的位罫(二) 帝国主義・植民地的土地政策の特殊日本 = 朝鮮的性格」『社会科学研究』(東京大学社会科学研究所)第30巻第2号 1-99頁 1978年8月。
7. 「土地調査事業史の一断面」旗田巍先生古稀記念会編『朝鮮歴史論集』下巻 297-330頁 龍溪書舎 1979年3月。
8. 「新渡戸稲造について」北海道大学百年史編集室編『北大百年史編集ニュース』第9号 7-17頁 1979年6月。
9. 「新渡戸稲造の植民地朝鮮観」『北大百年史編集ニュース』第11号 11-20頁 1980年11月。
10. "Nitobe Inazo and Korea," *Hokudai Economic Papers*, 10, pp.50-67, 1981.7.
11. 「植民学の成立」北海道大学編『北大百年史 通説』580-602頁 ぎょうせい 1982年7月。
12. 「アジアの生産様式」長岡新吉・石坂昭雄編著『一般経済史』[第1刷] 44-49頁 ミネルヴァ書房 1983年4月。
13. 「アジアの生産様式論争」『一般経済史』[第1刷] 49-55頁。
14. 「農民層の分解」『一般経済史』[第1刷] 92-102頁。
15. 「日本帝国主義の成立」『一般経済史』[第1刷] 185-189頁。
16. 「新渡戸稲造と朝鮮」『季刊 三千里』第34号 88-97頁 三千里社 1983年5月。
17. 「西服部家の朝鮮進出」大石嘉一郎編著『近代日本における地主経営の展開：岡山県牛窓町西服部家の研究』(東京大学社会科学研究所研究報告 第34集) 527-580頁 御茶の水書房 1985年2月。
18. 「いわゆる糞尿問題の末(1) 近代日本肥料問題の一断面」『経済學研究』(北海道大学)第34巻第4号(林善茂教授退官記念号) 54-69頁 1985年3月。
19. 「植民政策と新渡戸」札幌市教育委員会文化資料室編『新渡戸稲造』(さつぼろ文庫 34) 270-282頁 札幌市 1985年9月。
20. 「朝鮮の小作慣行と植民地米に関する一考察」『社会経済史学』第51巻第6号(第54回大会特集号 共通論題「日本資本主義と植民地」) 64-94頁 1986年2月。
21. 「いわゆる糞尿問題の末(2) 近代日本肥料問題の一断面」『経済學研究』(北海道大学)第37巻第4号 29-47頁 1988年3月。
22. 「いわゆる糞尿問題の末(3・完) 近代日本肥料問題の一断面」『経済學研究』(北海道大学)第39巻第4号 23-64頁 1990年3月。

23. 「満韓視察員と韓国農業奨励組合」『北海学園大学経済論集』第38巻第2号(田中修教授還暦記念号) 47-69頁 1990年12月。
24. 「明治肥料経済史の一齣」『経済学研究』(北海道大学)第43巻第4号(長岡新吉教授退官記念号) 47-72頁 1994年3月。
25. 「韓国併合」井口和起編『日清・日露戦争』(近代日本の軌跡 3)196-227頁 吉川弘文館 1994年10月。
26. 「明治肥料経済史の一断面」『経済学研究』(北海道大学)第44巻第4号(佐藤茂行教授退官記念号) 44-64頁 1995年3月。
27. 「明治肥料経済史の一齣」学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』(近現代1 1994年版) 556-569頁 朋文出版 1996年11月。
28. 「明治前期民事判決にみる肥料経済(1)」『経済学研究』(北海道大学)第47巻第2号(法文学部経済学科発足50周年記念号) 132-139頁 1997年9月。
29. 「アジアの生産様式」長岡新吉・石坂昭雄編著『一般経済史』[第29刷] 44-49頁 ミネルヴァ書房 1997年11月。
30. 「農の字解」『経済学研究』(北海道大学)第47巻第4号(小林好宏教授退官記念号) 12-24頁 1998年3月。
31. 「文化と経済」『経済学研究』(北海道大学)第48巻第3号(石坂昭雄教授退官記念号) 42-48頁 1999年1月。
32. 「明治肥料流通過程の一齣」『経済学研究』(北海道大学)第51巻第1号 1-20頁 2001年6月。
33. 「農民層の分解」長岡新吉・石坂昭雄編著『一般経済史』[第33刷] 92-102頁 ミネルヴァ書房 2003年3月。
34. 「韓国農業奨励組合の展開過程(明治期)」『経済学研究』(北海道大学)第53巻第1号 27-47頁 2003年6月。
35. 「朝鮮(韓国)農業奨励組合の展開過程」『経済学研究』(北海道大学)第53巻第3号(経済学部50周年記念号) 131-158頁 2003年12月。
36. 「明治肥料流通過程の一齣」学術文献刊行会編『日本史学年次別論文集』(近現代1 2001年版) 608-617頁 朋文出版 2004年3月。
37. 「新渡戸稲造 朝鮮=スコットランド観への道程」館野哲編著『36人の日本人 韓国・朝鮮へのまなざし』 40-45頁 明石書店 2005年2月。
38. 「新渡戸稲造の朝鮮(韓国)観」『経済学研究』(北海道大学)第54巻第4号 9-18頁 2005年3月。
39. 「明治前期民事判決にみる肥料経済(2)」『経済学研究』(北海道大学)第56巻第1号 1-20頁 2006年6月。
40. 「니투세이시」『한국의 경제사』 113-119頁 한길사 2006年8月。
41. 「明治前期民事判決にみる肥料経済をめぐる利害状況」『経済学研究』(北海道大学)第57巻第1号(第200号記念号) 1-32頁 2007年6月。
42. 「明治初年の大木屋敷をめぐる都市肥料経済」『経済学研究』(北海道大学)第59巻第4号 127-156頁 2010年3月。

## その他

1. 「朝鮮産米増殖計画」国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第9巻 610頁 吉川弘文館 1988年9月。
2. 「朝鮮土地収用令」『国史大辞典』第9巻 622頁。
3. 「朝鮮土地調査事業」『国史大辞典』第9巻 622-624頁。
4. 書評「浅田喬二著『日本植民地研究史論』(未来社 1990年2月)」日本植民地研究会編『日本植民地研究』第4号 195-206頁 龍溪書舎 1991年6月。
5. “「韓国(朝鮮)農業奨励組合(1908~1918)の展開過程” *Proceedings the Sixth Joint Seminar of Faculty of Economics and Business Administration Hokkaido University and College of Business and Economics Yonsei University* pp. 1-14 延世大学校商経大学 1996年7月。
6. 「クラーク, W. S.」永原慶二・ほか編『日本歴史大事典』第1巻 1014頁 小学館 2000年7月。
7. 「札幌農学校」『日本歴史大事典』第2巻 264頁 小学館 2000年10月。
8. 「朝鮮産米増殖計画」『日本歴史大事典』第2巻 1078頁。
9. 「朝鮮土地調査事業」『日本歴史大事典』第2巻 1082頁。
10. 「北海道大学」『日本歴史大事典』第3巻 701頁 小学館 2001年3月。
11. [辞典小項目] 「伊藤博文」 「竹添進一郎」 「脱亜論」 「三浦梧楼」 「南次郎」 「柳宗悦」 『角川世界史辞典』 82頁 566頁 568頁 916頁 921頁 962頁 角川書店 2001年10月。
12. <資料紹介> 「韓国農場視察報告および明治四十三年度水稻試作成績」『経済学研究』(北海道大学)第53巻第2号 87-94頁 2003年9月。
13. 「海軍兵学校出身の経済史家」 松井憲明・ほか編『想い出の記 教育者, 研究者, そして人間としての日南田静真』 82-85頁 発行・日南田さえ子 2007年3月。
14. 「Virgoの総領」大石先生追悼文集刊行会編『日本近代史研究の軌跡 大石嘉一郎先生の人と学問』 190-191頁 日本経済評論社 2007年11月。

## 編集後記

田中愼一教授が本年3月31日付をもって定年退職のため、北海道大学を去られることになった。ついては、教授の略歴および研究業績を記すことにより、教授の業績を本誌の記録に留め置くこととした。

(紀要委員会)